

意識調査の抜粋1

- 様々な法律で働きながら妊娠・子育てする権利が守られていることを知らない 50.3%
- 在職中の妊娠時、「働きながら妊娠・子育て」に不安を感じた 63.0%
- 妊娠未経験の在職者、将来は「働きながらの子育てを希望」78.4%
専業主婦志望は14.8%
- 会社に妊娠・出産の当事者支援制度があり47.4%、しかし活用できているのは16.3%
- 「マタニティ・ハラスメント(マタハラ)」の認知 6.1%
- 自分が「マタハラ被害者」 25.6% > 昨年の連合調べ「セクハラ被害者」17.0%
 - マタハラ被害者の45.7%「相談せずに我慢した」
 - 周囲に「マタハラ被害者」がいた 23.2%
- 周囲の社員へのケア制度がある24.0%、しかし制度が機能しているのは11.5%

意識調査の抜粋2

■ マタハラが起きる原因

- 1位 男性社員の妊娠出産への理解不足・協力不足 51.3%
- 2位 会社の支援制度設計や運用の徹底不足 27.2%
- 3位 女性社員の妊娠出産への理解不足 22.0%

■原因の考察: いずれの分析でも「男性の理解不足」が不動の1位であったことに加えて・過去妊娠したことがある人は「**定常的な業務過多**」に、妊娠未経験・現在妊娠中の人は「**周囲へのフォロー制度不足**」を原因としてあげる傾向の差があった。

- ・職場に「妊娠・出産当事者への支援制度がある」と答えた人で比較すると
制度が活用されている職場の人は「**フォローする周囲へのケア制度不足**」をあげ
制度が活用されていない職場の人は「**定常的な業務過多**」を原因と考える傾向の差が見られた
- ・「フォローを行う周囲の社員へのケア制度」で比較すると
制度がない職場の人は「**フォローする周囲へのケア制度不足**」を原因にあげる傾向があり、
制度はあるが機能していない職場では、他のどの調査より「**男性の理解不足**」をあげる比率が低く、
「**フォローする周囲へのケア制度不足**」と「**定常的な業務過多**」をあげる傾向が高くなっていた
- ・「マタハラ被害者」の原因認識の1~2位は全体と等しいが、「**ハラスメントの啓蒙不足**」が比較的高く、「**周囲にマタハラ被害者がいた**」人は「**定常的な業務過多**」が比較的高かった